

1 学校教育目標

「心豊かに心身ともに健康で自ら学び考えることができる児童の育成」

2 目指す児童像

- 心豊かな児童（徳）
笑顔であいさつができる児童 やさしさと思いやりのある児童
誰とでも仲よくできる児童 折り合いをつけることのできる児童
- 心身ともに健康な児童（体）
健康と安全を考えて行動する児童 外で元気に遊ぶ児童
強い心と体で頑張り抜く児童 がまんすることができる児童
- 自ら学び考える児童（知）
よく考え、進んで学ぶ児童 自分の考えを伝えることのできる児童
人の話を最後まで聞くことのできる児童
- ☆ 今年度の目指す児童像（キャッチフレーズ）
めざせ！あかさかっ子
① あかるい子（明るく、笑顔で友達に接することができる子）
② かんがえる子（学習でも、学校生活でも、しっかり考える子）
③ さいごまであきらめない子（何事においても最後まで取り組む子）
④ かっぱつで元気な子（基本的な生活習慣が身に付いている子）

3 目指す教師像・学校像（職員、子ども、保護者、地域にとっても人生の羅針盤となる学校へ）

【目指す教師像】

- 情熱をもち、子どもとともに伸びる教職員
- 一人一人の子どものよさや可能性を見つけ、引き出し、育てる教職員
- 日頃より研修に励み、専門的な指導力を高める教職員
- 表現力豊かで、自己の力を最大限に発揮できる教職員
- 組織の一員として（同僚性）の自覚をもち、ともに創造し合う教職員
- 子どもや保護者の気持ちに寄り添うことができる教職員

【目指す学校像】

- 子どもにとって『行きたい学校』 ○ 保護者にとって『行かせたい学校』
- 教師にとって『働きたい学校』 ○ 地域住民にとって『行ってみたい学校』

4 本年度の目標と達成のための取り組み

【基本】安心・安全な学校環境づくり

(1) 学年・学級経営の充実

- 各学年に応じた学年経営目標、学年経営目標を踏まえた学級経営目標の設定と実践及び評価・改善
- 教師と児童の信頼関係の構築。児童相互の好ましい人間関係の育成。保護者と細かに連絡を取り、信頼関係を深めるとともに、意思の疎通に努める。(個人懇談会、学習参観、あゆみ、各種通信等を通して) 〈フェイス TO フェイス で〉※コロナ感染防止対策をして!
- 「心の相談」の実施と面談(記録用紙の保管)※(児童が卒業するまでは保管)(毎月実施)

(2) 高学年における持ち合い授業の充実(チームで子どもを育てる体制づくり)

多くの職員が関わることによる多面的な子どもの評価など、様々な効果が上がることが期待できる。(今年度は、5年・6年では、外国語科と家庭科等で実施)

(3) 特別の教科道徳の推進

○道徳教育の要となる道徳科の授業を充実させ、よりよく生きる基盤となる道徳性を育成する。

※子どもの心の温度が一度でも高めることができる道徳の時間へ。

※学級目標を大切に(絵に描いた餅ではなく“本気の学級目標”の設定)、学級目標

と道徳の時間の関連を図っていく。

(4) 健康教育の充実

- 手洗い、消毒の徹底の継続(コロナ感染防止についての理解を深めさせる。外部機関との連携)
- 学校保健委員会の組織の確立と活動の充実。教職員・児童・保護者・地域が一体となつての健康教育(保健・安全・給食)の充実
- 健康・安全についての知識の向上を図り、生涯にわたって運動に親しみ、健康で活力に満ちた児

童の育成。(体力向上の取組) ※体力テストを中心としたP D C Aサイクルの確立

※北九州市体力向上プログラムの準備運動編の活用

○学校事故・交通事故などの防止の取組の徹底。

○健康観察、健康診断、学校事故等の結果を分析及び以後の指導への活用

(5) 教科教育の充実(学習環境づくり)

○学習規律の徹底(最初が肝心)

○1単位45分の授業時間の確保(めあて、振り返り、まとめ徹底⇒毎時間実施)

○児童一人一人が意欲をもって主体的に学び、「分かる・できる」喜びを実感することがで

きる授業づくり

※今年度も、振り返りは児童自身に考えさせ、記述させる。

※まとめは、キーワードを振り返りで拾い上げ、まとめる。

○「授業改善シート」の活用(自分自身の授業を振り返る)

○ミニテストや繰り返しの練習の充実による学習内容の定着

○月・水・金のチャレンジタイムの確実な実施

・ICTを活用した授業実践(全職員実施。どの教科・領域でも可)。

・タブレット活用の推進(スラドрил・MIM等の活用の徹底)

(6) 家庭学習の充実

○家庭学習が充実するように、家庭学習のメニュー等を児童に配布と活用の推進

※家庭学習チャレンジハンドブックの活用

※校長による家庭学習マイスター賞の表彰(学期に一度)

(7) 外国語活動・外国語科・外国語の活動の充実

○外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成

○クラスルームイングリッシュの活用（ALT や JAL との連携）

○1年生、2年生は、朝自習の時間に外国語「の」活動を行い、外国語に慣れ親しむようにする。（ALT との連携！）

（8）人権教育の充実

○人権に関するあらゆる問題の解決に教育が担う重要性を自覚し、教育活動全体を通しての人権尊重の精神と態度を身に付ける指導

○人権教育教材集「新版 いのち」、幼児・児童対象人権教育指導資料「あそぼう」の効果的な活用、「北九州こどもつながりプログラム」の活用 「人権教育ハンドブック」の活用

（9）特別支援教育の充実

○特別支援学級の児童や学級経営について全教職員の共通理解を深め、全校体制による特別支援学級や通級指導の充実に努める。※特別支援教育に関する研修等の実施。

○ケース会議等の充実

（10）学校図書館教育の充実

○読書週間や「推薦図書リストの活用」などを通しての読書習慣の形成

○こども読書の日（4月23日）、北九州市こども読書の日（10月24日 学校での指導は前後2週間）の充実した取り組み（学校図書館職員との連携等）

（11）防災教育の充実（自分の命は自分で守る児童の育成）

○児童の命を守る防災教育を積極的に推進し、自らの命を大切にし、場面に応じて主体的に判断し、最善をつくそうとする態度や率先して行動しようとする力の育成（学期に1回の避難訓練の充実）

「いのちをつなぐ未来館防災のWEB動画の活用」、北九州市防災教育プログラムの活用等

（12）情報教育充実

○「プログラミング教育」の充実とタブレットの活用

- ・PC活用だけでなく、タブレット活用、実物提示装置等を活用した授業づくり
- ・リモートでの学習がスムーズにできるように、児童だけでなく、全職員での研修を行い、もしもの時に備える。

(13) 若年教員の指導力向上に向けた取り組み

- ・若年研修の実施
- ・定期的な若年研修（管理職主催：若葉会）の実施（※教セなど関係機関の研修を含めて）

(14) 主題研究の推進

- ・研究主題の決定とPDCAの確立・授業改善評価シートを活用した授業研究の実施

(15) 福祉教育の充実

○高齢者との交流やボランティア活動などの体験活動（地域清掃等）を通して、思いやりの心や奉仕する精神を培う。また、他を思いやる心や奉仕する心をはぐくみ、だれもが安心して生活できる福祉社会の担い手としての児童を育成する。

(16) 業務改善・ワークライフバランスの重要性（在校時間の減少を）

「子どもと向き合う時間を確保するために」

「ワークライフバランスの充実とメンタルヘルス等の健康保持」

- 専科指導等の授業の工夫や学校行事等の見直し
- 校務支援システム等、ICT機器の積極的活用
- スクールサポートスタッフとの連携
- スクールヘルパーや地域の人材の活用方法の工夫
- ハッピーライフ休暇の推進

他

(17) 地域との連携（赤坂ふるさと会との連携推進）

☆赤坂まちづくりプラン・・・地域のコミュニティの中心として学校がある

○人材バンクの登録（いつ、どのようなことで、何人）

総合的な学習の時間や社会科、特活、体育科、音楽、読み聞かせ